



12月幼稚園だより

令和7年12月2日

千代田区立番町幼稚園

園長 美越 英宣



原体験が生み出される場であり続ける幼稚園



副園長 荒木 久子

(番町幼稚園HP)

先日、色付いたタイサンボクや柿の葉に囲まれた園庭の砂場で、全学年で焼き芋を楽しむ一日を過ごしました。番町幼稚園の焼き芋は、ただ炭火で焼くだけではありません。子どもたちの前で、まずはマッチをすり、新聞紙に小さな炎を灯すところから始めます。小さなマッチの火が新聞紙に灯り、炎が少しずつ大きくなり、薪へと移っていくその一瞬一瞬を、子どもたちは目を凝らし、耳を澄まし、匂いを感じながら見守ります。「あったかくなってきた!」「煙の匂いがする!」「ひらひら(灰が)降ってきたよ」。そんな声があがる中で、火のもつ大きな力と、時に怖さを伴う力についても話しました。教職員は安全のためにフェンスやコーンを設置し、砂場付近には水入りのバケツ、消火器を準備して子どもたちに声をかけながら見守ります。そんな姿からは火の怖さを伴う力を、また、焼く前にアルミホイルを自分たちで巻いた時には硬かったサツマイモが、焼き上がると温かく柔らかく甘く変わり、味わったおいしさからは、火の豊かさや偉大さや不思議さなどを感じ取ったことでしょう。こうした体験は、文字や映像だけでは決して伝えきれない、感情や感動を伴う、直接的・体験的学びであり、同じ環境から個々に感じ学び取る「主体的学び」です。

都会の真ん中で、時代の流れもある中で、こうした「生きた学び」をさせていただけるのは、近隣の皆様のご理解とご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

そして先日、職員室で教職員と「自分の幼児期の思い出」を語り合う時間がありました。数十年前に幼稚園時代を過ごした先生たちが語る記憶は、どれも鮮やかで心温まるものでした。

例えば、「幼稚園で友達や先生と一緒に作ったカレーや豚汁。湯気の立ちのぼる鍋からよそってもらい、友達と食べたあの味は、とびきり温かくて美味しくて、今でも忘れない」「砂場で見つけた固い砂の塊を宝物のように大切にしたこと。長年忘れていたけれど、先日、砂場遊びの際、ある子が同じように砂の塊を見つけて宝物のようにし『触ってみていいよ』と差し出してくれた瞬間、懐かしい記憶がよみがえり、胸がじんわり温かくなった」「年長組になると特別にできたお茶会。友達と一緒に味わったあの特別感やおいしさは、今でも心に残っている」—などでした。



それぞれ過ごした場所や経験は違いますが、大人になった今でも、原体験として心に刻まれていることと、その原体験を思い起こすと何とも言えないほっこりと温かい気持ちになることは共通でした。先日の焼き芋や、その芋を掘った芋ほり遠足などを、数十年後「原体験」として思い出し、懐かしさと温かさがこみ上げる瞬間を過ごす子どももいるでしょうか。子どもたちにとって、番町幼稚園での出来事がそれぞれの人生の温かな原体験となり、幼稚園の場が温かな原風景となっていくよう、寒さ厳しいこれからの時期も充実した教育活動を教職員とつくり上げて参ります。

已年の期間も残りわずかとなりました。皆様におかれましては、来る新しい年が希望に満ち実り多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

